

釧路教育研究センター

令和6年度

事業計画



令和5年 7月 6日(木)
「釧路市の教育
～採用2年目研修会～」



令和5年11月 8日(水)
「特別支援教育の充実Ⅱ」



令和5年 8月29日(火)
「幼保小連携と協働」



令和5年 7月 4日(火)
「義務教育学校を見に行こう
～阿寒湖義務教育学校の実践～」

目 次

1 運営方針	1
2 教育研究センター執行体制	
(1) 機構図	2
(2) 業務分担	2
3 運営の重点並びに事業の概要	
(1) 調査・研究	3
(2) 研究グループリーダー及び研究グループ委員	4
(3) 研修講座	5
(4) 教育情報の収集、整理、提供	5
(5) その他	5
 資料 1 令和 6 年度 研修講座事業推進計画および研修講座一覧	
 資料 2 令和 5 年度 事業報告	
・ 研究紀要等の発行	10
・ 研修講座参加状況	11
・ 研修講座別参加人数	12
・ 教育相談状況、研究グループ研修実施状況	13
・ 研究センター新聞記事	14

1 運営方針

釧路市及び北海道における教育目標と教育推進の重点の具現のため、今日的な教育課題について実践的な調査・研究を実施し、その研究成果を研究紀要の発行や研修講座の実施をととして市内各校に広く発信していく。

また、G I G Aスクール構想実現により1人1台端末が整備され、各教科等により効果的な活用が求められることから、I C Tの活用を含めた総合的な研修機関としての機能を充実し、釧路市の教育振興のためにその役割を果たしていく。

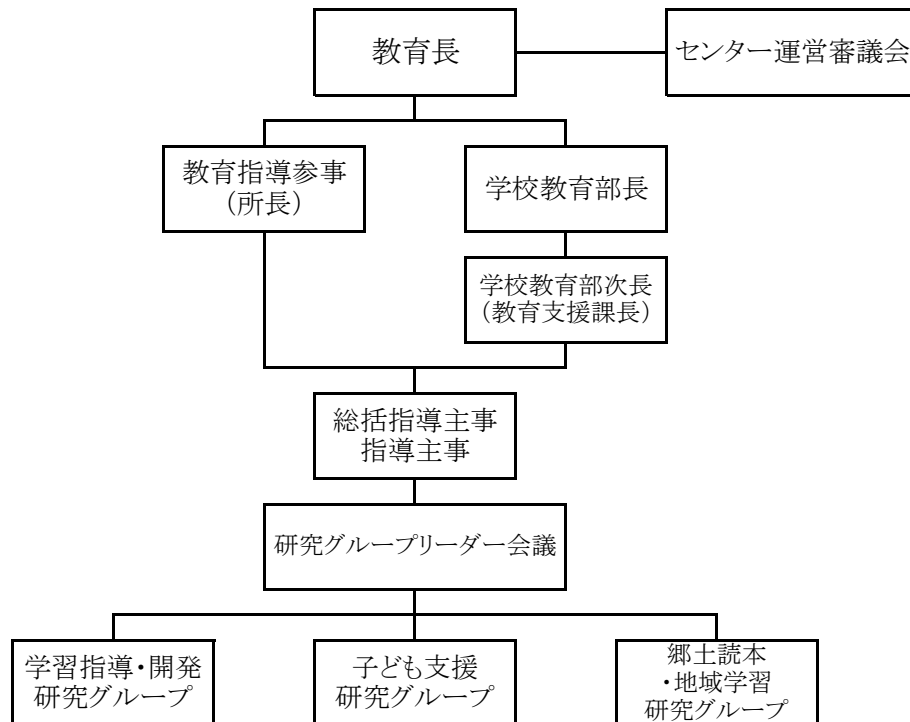
《事業推進の基本的事項》

釧路市教育委員会の教育行政方針や学校教育推進の指針に基づいて、本市における教育の振興・発展を図るための調査研究や研修事業を推進する。

- (1) 学校教育における今日的な課題に対応するため、専門的で、学校現場で生きる調査研究を通して教育活動を推進するとともに、研修講座を通して、教職員の資質向上及び教育実践の深化・高揚を図る。
- (2) 視聴覚機器を含めたI C T機器の活用を図り、研究センターとしての機能を生かして、教職員の実践的教育研究の奨励・普及に努める。

2 教育研究センター執行体制

(1) 機構図



(2) 業務分担

職 名	氏 名	担 当 事 務	備 考
教育指導参事	本 川 敬 一	総括・渉外	所長
総括指導主事	齊 藤 崇	総括補佐	
指導主事	吉 岡 康一朗	調査・研究の支援・助言	
	関 本 裕 介		
	佐 藤 美 里		郷土読本・地域学習担当
	赤 本 純 基		学習指導・開発研究担当
	寺 嶋 純 哉		
	佐 藤 義 人	リーダー研修・リーダー会議担当	子ども支援研究担当
研究グループ リーダー	主 任 小野寺 隆 (鶴野小)	調査・研究の推進 各研究グループの運営 研修講座等の協力	郷土読本・地域学習担当
	副主任 下 山 智 之 (鳥取西中)		学習指導・開発研究担当
	齋 藤 政 人 (幣舞中)		子ども支援研究担当

3 運営の重点及び事業の概要

(1) 調査・研究

ア 重点事項

- (ア) 教育の今日的課題を的確に把握し、その実践的・先導的な研究を通して課題解決にあたる。
- (イ) 効率的な研究体制を確立し、研修講座との関連においてその成果が実践的に生かされるようにする。

イ 調査研究概要

グループ	研 究 内 容	計 画	担 当	
			リーダ－	委員
学習指導・開発	釧路市内各校における学習指導上の課題を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的な充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた算数・数学科の「釧路市が目指す授業」の在り方を研究し、その成果を発信する。	1 か年 計画	1 名	4 名 小-3 中-1
子ども支援	釧路市内各校における子ども支援に関する課題を踏まえ、教育相談や保護者対応の考え方やカウンセリングの方法などを研究し、実践を蓄積しその成果を発信する。	1 か年 計画	1 名	6 名 小-3 中-3
郷土読本・地域学習	ふるさとに誇りをもち心豊かでたくましい子どもをはぐくむことを目指し、地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業といった教育資源（「ひと・もの・こと」）を生かした授業の在り方を研究するとともに、関係機関と連携しながら、郷土読本「くしろ」の内容の検討を行う。	1 か年 計画	1 名	4 名 小-4

(2) 研究グループリーダー及び研究グループ委員

ア 研究グループリーダー

- ① 釧路市の様々な教育課題の解決と教員の指導力向上を図るため、実践的な調査・研究を実施するとともに、各研究グループの研究を推進し、市内各校へ発信する。

【業務内容】・各研究グループの運営、研究推進 ・研修講座の運営、協力
・所報、成果物の発行及び、教育情報の提供等
・毎週金曜日と研究グループ委員会が開催される火曜日に勤務し、時間は 17:30～19:00 とする。

- ② 必要に応じて、教員の指導力向上に向けた協議に参加し、その内容について各研究グループの活動に還元する。

職 名	氏 名	担 当	所 属 校
主任	小野寺 隆	郷土読本・地域学習研究グループ	鶴 野 小学校
副主任	下 山 智 之	学習指導・開発研究グループ	鳥取西 中学校
	齋 藤 政 人	子ども支援研究グループ	幣 舞 中学校

イ 研究グループ委員

釧路市の様々な教育課題の解決と教員の指導力向上を図るため、所属校での実践を活かしながら研究グループリーダーとともに研究グループの実践的研究を行う。

【業務内容】・研究グループの研究推進、成果物の発行・提供
・毎月2回勤務

■学習指導・開発研究グループ（4名）

氏 名	所 属 校
我 妻 萌 子	中 央 小学校
兒 玉 千 里	城 山 小学校

氏 名	所 属 校
尾 形 加奈子	芦 野 小学校
高 木 優 人	桜が丘 中学校

■子ども支援研究グループ（6名）

氏 名	所 属 校
石 原 明 香	青 葉 小学校
高 橋 真理子	愛 国 小学校
藤 原 崇	昭 和 小学校

氏 名	所 属 校
高 橋 円	鳥 取 中学校
柴 田 題 寛	景 雲 中学校
谷 口 友 彰	鳥取西 中学校

■郷土読本・地域学習研究グループ（4名）

氏 名	所 属 校
目 黒 翔 子	鳥 取 小学校
松 浦 季 輝	光 陽 小学校

氏 名	所 属 校
江 渡 明 香	清 明 小学校
鶉 橋 大 志	興 津 小学校

(3) 研修講座

ア 重点目標

- ① 学校教育における今日的な課題や各学校が求める課題解決につながる教育内容や方法等について具体的に検討し、実践的指導力を高める講座を設定する。
- ② キャリアステージに応じた教員の主体的な研修ができるよう、授業改善や教科指導、学級経営等の講座を開催するとともに、教職員の積極的な参加を促し、資質向上を図る。
- ③ G I G Aスクール構想に係る1人1台端末が整備されたことにより、その効果的な活用方法について、実践的な研修を行う。
- ④ 校内研修の充実を目的としたサポート体制を充実し、各校の研究課題解決に向けた研修活動への援助・協力を行う。

イ 講座一覧（7～9ページ参照）

(4) 教育情報の収集、整理、提供

ア 重点目標

教育研究・研修に関する情報を収集し、その提供を通して、各学校、研究機関・団体等との交流を図るとともに、調査・研究を円滑に推進する。

イ 事業の概要

教育資料・研究紀要等の収集、整理、保管、提供を行う。

(5) その他

・ 関係機関との連携

関係機関・団体との連携を密にし、研修の充実と活性化に努める。

令和 6 年度 研修講座事業推進計画

1 運営の重点

- (1) 釧路市の教育課題に応えるよう研修事業の推進を図り、研修の効果を高めるために研修講座の充実と円滑な運営に努める。
- (2) 教職員の研修意欲を高めるよう研修事業の紹介・啓発に努める。

2 研修講座について

- (1) 研修講座の受講については、希望参加を原則とします。
- (2) 研修講座の要項については、講座の目的や内容等を確定している範囲で記述しています。
- (3) 研修講座の種類や内容については「第Ⅲ期 釧路市教育推進基本計画」「令和 6 年度教育行政方針」の施策等や、アンケートの要望事項を考慮して設定しています。
- (4) 研修方法は、講義、授業公開のほか、協議、実習・実験、視察・体験・オンラインなどの形態も取り入れ、研修効率を高めるよう配慮しています。

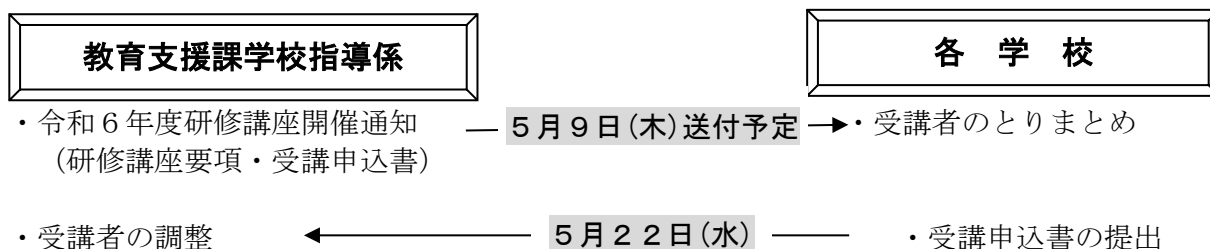
3 受講申し込み手続き

研修講座要項も含めて市内・管内に全てメールでの配信を実施しています。

- (1) 下記の要領で受講申し込みをしてください。**重点講座につきましては、釧路市内の学校 1 名以上の参加**を期待していますので、よろしくお願いいたします。

また、**釧路市内の学校には、1 人 1 回以上の講座への参加**をお願いいたします。

なお、「新たな研修制度」の実施により講座への受講者数の増加が見込まれますが、「第Ⅲ期 釧路市教育推進基本計画」や「令和 6 年度教育行政方針」の施策等にかかわる(重点)講座につきましては、参加対象を釧路市内の学校に限定している講座があることをご了承ください。



※各講座実施の 1 週間前を目途に、実施案内、要項及び参加者名簿を申込みのない学校も含めて(申し込み漏れを防ぐため)全校にメールで配信しますので、ご確認ください。

- (2) 予定人数に満たない講座が出た場合は、再度、募集を依頼し受講申し込みを受け付けますのでよろしくお願いいたします。
- (3) 受講申し込み後、やむを得ない事情により受講不可能となった場合は、講座開催の 1 週間前までに、教育支援課学校指導係宛お知らせください。
- (4) 追加申し込みについては、随時受け付けておりますので電話・メール等でご連絡ください。
(TEL 23-5189 FAX 25-5999 E-mail:kyo-kyouikushien@city.kushiro.lg.jp)
- (5) 受講に当たり、配慮が必要なことがありましたら、受講申込書の「配慮事項」欄に記入してください。

4 その他

- (1) 各学校、研究団体等の行事や講師の都合などで日程を変更する場合があります。その場合は早期に各学校に連絡いたします。
- (2) 研修講座会場は各学校をはじめ、様々な場所を会場としています。会場等の変更があった場合は、事前に連絡いたします。

NO. 1		◎印：特別重点講座です。市内各学校は1名以上の参加をお願いします。					
1		講座名	国語科教育の充実			授業	研修目的 ○ 釧路市標準学力検査の分析結果を基にした国語科の授業公開と研究協議を通して、国語科の授業の在り方について理解を深める。
		期日	調整中	対象	小・中・高		
		会場	釧路市立幣舞中学校				
2	◎	講座名	学力調査官と学ぶ全国学調を踏まえた算数・数学科授業の在り方			授業	研修目的 ○ 文部科学省学力調査官を講師として、小・中学校における、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた算数・数学科の授業公開、研究協議を通して、指導の在り方について理解を深める。
		期日	10月22日(火)	対象	小・中・高		
		会場	釧路市立釧路小学校、釧路市立幣舞中学校				
3		講座名	理科教育の充実			授業	研修目的 ○ 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた理科の授業公開、研究協議を通して、理科における指導の在り方について理解を深める。
		期日	調整中	対象	小・中・高		
		会場	調整中				
4	◎	講座名	外国語教育の充実 ～コミュニケーションの目的・場面・状況を設定した言語活動を通して～			授業	研修目的 ○ 外国語科の授業公開、研究協議を通して外国語における指導と校種間連携の在り方について理解を深める。
		期日	調整中	対象	小・中・高		
		会場	釧路市立北中学校				
5		講座名	体育教育の充実 ～対話的な学びを充実させる授業を目指して～			授業	研修目的 ○ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた授業公開や研究協議を通して、対話的な学びを充実させる授業の在り方について理解を深める。
		期日	調整中	対象	小・中・高		
		会場	調整中				
6	◎	講座名	小中連携による算数・数学科の「釧路市が目指す授業」			授業	研修目的 ○ 研究センター学習指導・開発研究グループの小中連携による、系統的な指導に着目した算数・数学科の「釧路市が目指す授業」提案や研究協議を通して、校種間連携・協働の在り方についての理解を深める。
		期日	12月23日(月)	対象	小・中・高		
		協力	学習指導・開発研究グループ				
		会場	釧路市立芦野小学校				
7		講座名	地域社会への愛着をはぐむ「ふるさと教育」の充実			授業	研修目的 ○ 研究センター郷土読本・地域学習研究グループによる、ふるさと教育に係る授業公開や研究協議を通して、ふるさと教育の在り方についての理解を深める。
		期日	11月28日(木)	対象	幼保認・小・中・高		
		協力	郷土読本・地域学習研究グループ				
		会場	釧路市立清明小学校				
8	◎	講座名	今求められるカウンセリングの実際			授業	研修目的 — 公認心理士・上級教育カウンセラー・ガイダンスカウンセラー・学校カウンセラーからの教育相談等についての説明や協議・演習を通して、カウンセリングの考え方や方法についての理解を深める。
		期日	9月24日(火)	対象	幼保認・小・中・高		
		会場	調整中				
9		講座名	幼保小連携と協働 ～子供の学びのなだらかな接続を目指して～			授業	研修目的 ○ 「幼児期までに育ってほしい姿」を保育参観、小学校授業参観をもとに協議することを通して、架け橋期の教育の充実について理解を深める。
		期日	10月30日(水)	対象	幼保認・小・中・高		
		会場	認定こども園よしの幼稚園、釧路市立大楽毛小学校				

NO. 2		◎印：特別重点講座です。市内各学校は1名以上の参加をお願いします。					
10	小・中 研修担当	講座名	校内研修の充実			授業	研修目的
		期日	7月2日(火)	対象	小・中		
		会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」			—	
11	◎	講座名	いじめ・不登校への対応			授業	研修目的
		期日	8月2日(金)	対象	幼保認・小・中・高		
		会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」			—	
12	採用1・2年目	講座名	釧路市の教育 ～採用1・2年目研修会～			授業	研修目的
		期日	7月31日(水)、8月1日(木)	対象	小・中		
		会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」			—	
13		講座名	特別支援教育の充実 ～児童生徒の実態把握と授業づくり～			授業	研修目的
		期日	7月19日(金)	対象	小・中		
		協力	札幌市立新川中央小学校教諭			—	
		会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」			—	
14		講座名	みんなで学ぼう！「生命(いのち)の安全教育」			授業	研修目的
		期日	12月19日(木)	対象	幼保認・小・中・高	○	
		会場	釧路市立桜が丘中学校			—	
15		講座名	環境教育について考えよう！			授業	研修目的
		期日	7月24日(水)	対象	幼保認・小・中・高		
		会場	猛禽類医学研究所			—	
16		講座名	1人1台端末を活用した学習指導の充実			授業	研修目的
		期日	9月25日(水)	対象	小・中・高		
		協力	新しいかたちの学びの推進グループ			○	
		会場	釧路市立大楽毛小学校			—	
17		講座名	「絵画指導」の充実			授業	研修目的
		期日	調整中	対象	幼保認・小・中・高		
		会場	調整中			—	
18	◎	講座名	春採中学校区の公開研に行こう ～釧路市立興津小学校公開研究会～ 令和5・6年度釧路市教育委員会研究指定校			授業	研修目的
		期日	11月8日(金)	対象	幼保認・小・中・高	○	
		会場	釧路市立興津小学校			—	

令和6年度 釧路教育研究センター 研修講座一覧

NO. 3	◎印：特別重点講座です。市内各学校は1名以上の参加をお願いします。
-------	-----------------------------------

19	◎	講座名	春採中学校区の公開研に行こう ～釧路市立桜が丘小学校公開研究会～ 令和5・6年度釧路市教育委員会研究指定校			授 業 ○	研 修 目 的	「釧路市が目指す授業を基にした授業改善」をテーマに、授業公開や研究協議を通して理解を深める。
		期日	11月15日(金)	対象	幼保認・小・中・高			
		会場	釧路市立桜が丘小学校					
20	◎	講座名	春採中学校区の公開研に行こう ～釧路市立春採中学校公開研究会～ 令和5・6年度釧路市教育委員会研究指定校			授 業 ○	研 修 目 的	「釧路市が目指す授業を基にした授業改善」をテーマに、授業公開や研究協議を通して理解を深める。
		期日	11月22日(金)	対象	幼保認・小・中・高			
		会場	釧路市立春採中学校					
21		講座名	公開研に行こう ～釧路市立昭和小学校自主公開研究会～			授 業 ○	研 修 目 的	「自ら学び、かかわり合いの中で、考えを深める子供の育成～粘り強く学び続ける子供の姿を目指して～」をテーマに、授業公開や研究協議を通して理解を深める。
		期日	11月20日(水)	対象	幼保認・小・中・高			
		会場	釧路市立昭和小学校					

令和6年度 釧路教育研究センター 教育講演会				
		対 象	講師・講演内容	会 場
令和7年2月8日(土)	午後	幼稚園・保育園 認定こども園 小学校・中学校 高校・一般	元プロ野球選手、野球解説者 鶴岡 慎也 氏 「講演内容調整中」	コーチャンフォー 釧路文化ホール 小ホール

事業報告



令和5年10月31日（火）
「道徳科教育の充実
～マイスターの授業公開～」



令和5年9月27日（水）
「音楽科教育の充実」



令和5年7月20日（木）
「生命の安全教育の充実」



令和5年12月20日（水）
「1人1台端末を活用した情報活用能力の育成」

《研究紀要等の発行》

	発 行 物	部 数	配 布 先
1	・研究紀要第194号 「1人1台端末の活用による 情報活用能力の育成」 (学習指導・開発研究グループ)	200 H P 掲 載	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関等
2	・研究紀要第195号 「不登校児童生徒に対する 日常の支援のあり方」 (子ども支援研究グループ)	200 H P 掲 載	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関等
3	・所報「釧路教育」 No. 314 No. 315 No. 316	300 300 300 H P 掲 載	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関等
4	・情報活用能力体系表【釧路市版第2版】	メール配信 H P 掲 載	小・中学校 義務教育学校
5	・「釧路市のふるさと教育に関する研究」 資料 (郷土読本・地域研究グループ)	メール配信	小・中学校 義務教育学校

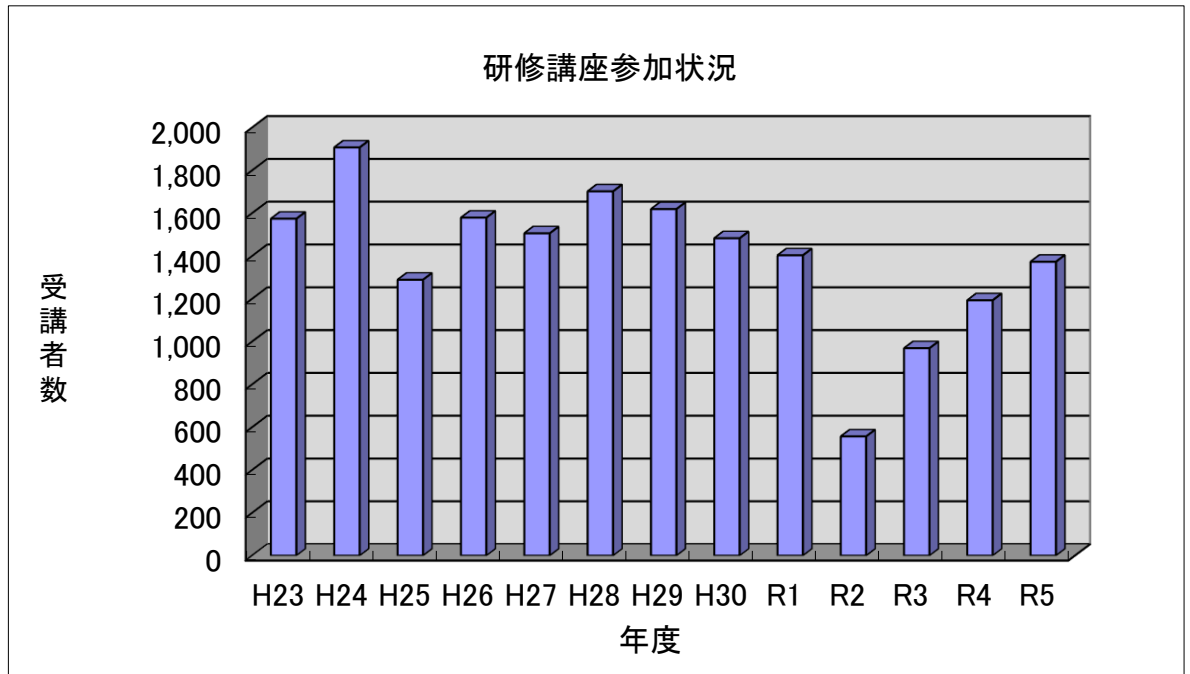
《 研 修 講 座 参 加 状 況 》

令和5年度は、オンラインと集合を併用しながら25講座を開講した。(令和4年度に開講した研修講座数は24講座)

※()は令和4年度受講者数。

	市内小中教職員	管内小中教職員	幼・高・一般等	合 計
受講者数	1270(1082)	43 (62)	60(49)	1373(1193)

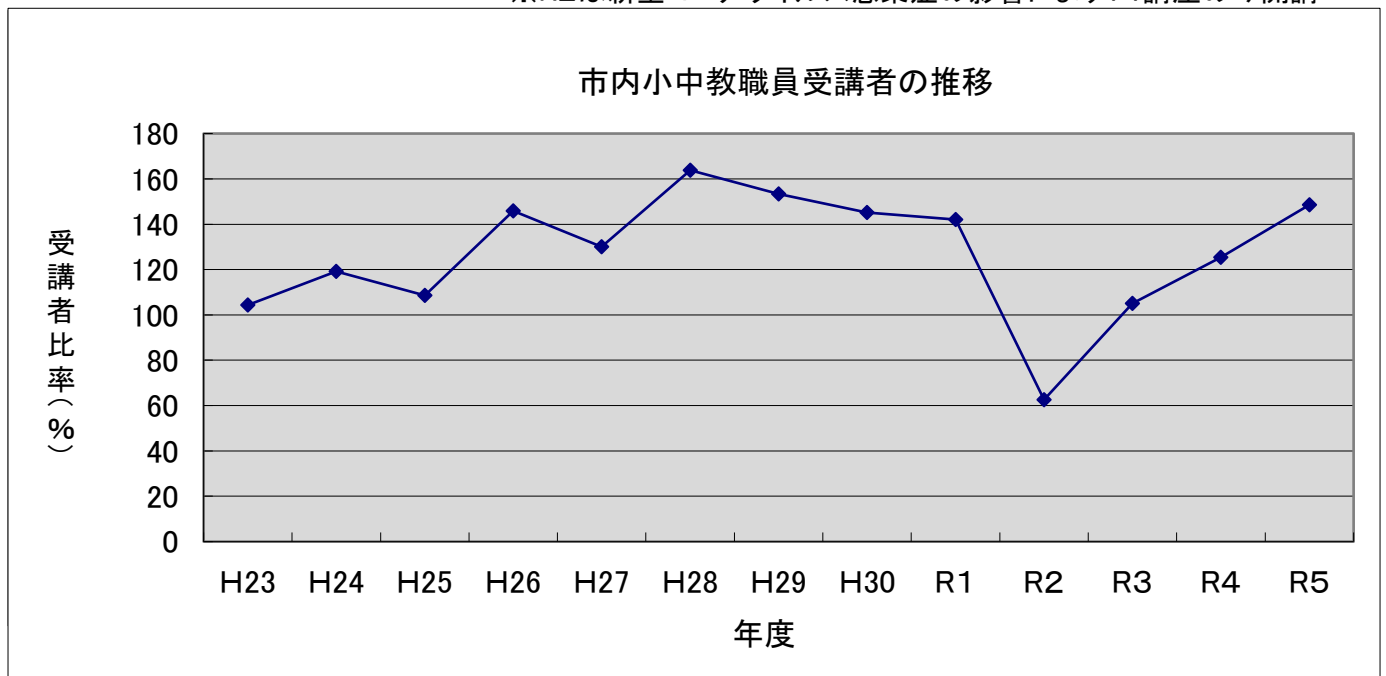
年度	受講者
H23	1,574
H24	1,907
H25	1,289
H26	1,579
H27	1,506
H28	1,702
H29	1,619
H30	1,483
R1	1,403
R2	557
R3	969
R4	1,193
R5	1,373



《市立小中教職員参加状況》 釧路市立小中学校教職員に対する受講者数の比率(%)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
受講者数	894	1,068	935	1,266	1,123	1,424	1,385	1,305	1,265	528	860	1,063	1,270
比率(%)	104.3	119.2	108.6	145.9	130.1	163.8	153.4	145.2	142.1	62.6	105	125.4	148.6

※R2は新型コロナウイルス感染症の影響により14講座のみ開講



釧路教育研究センター研修講座 参加人数（令和5年度実績）

番号	講 座 名	期 日	会 場	対 象	参加人数
1	大館に学ぼう ～大館市授業マイスターの授業を通して【小学校】～	10月3日（火）	釧路市立芦野小学校	小・中・義	72
2	大館に学ぼう ～大館市授業マイスターの授業を通して【中学校】～	10月3日（火）	釧路市立鳥取中学校	小・中・義	62
3	社会科教育の充実 ～マイスターの授業公開～	7月19日（水）	釧路市立鳥取西中学校	小・中・義・高	54
4	音楽科教育の充実	9月27日（水）	北海道教育大学附属釧路義務 教育学校後期課程	小・中・義・高	17
5	体育科教育の充実	7月31日（月）	北海道教育大学釧路校	小・中・義・高	17
6	外国語教育の充実	12月18日（月）	釧路市立北中学校	小・中・義・高	中止
7	道徳科教育の充実 ～マイスターの授業公開～	10月31日（火）	釧路市立新陽小学校	小・中・義・高	60
8	いじめ・不登校への対応 ～ケース対応・教育相談の充実～	8月3日（木）	釧路市生涯学習センター まなぼっと幣舞	小・中・義・高	47
9	幼保小連携と協働	8月29日（火）	認定こども園釧路桜幼稚園	幼・保・認・小・中・義・高	31
10	校内研修の充実	6月7日（水）	各学校（オンライン配信）	小・中・義 （研修担当教員対象）	34
11	釧路市の教育～採用2年目研修会～	7月6日（木）	釧路市中央図書館	小・中・義 （採用2年目教員）	36
12	特別支援教育の充実Ⅰ	5月12日（金）	釧路市生涯学習センター まなぼっと幣舞	小・中・義 （特別支援教育コーディネーター）	59
13	特別支援教育の充実Ⅱ	11月8日（水）	釧路市立鳥取西小学校	幼・保・認・小・中・義・高	52
14	生命の安全教育の充実	7月20日（木）	釧路市立鳥取西中学校	幼・保・認・小・中・義・高	27
15	環境教育の充実	7月27日（木）	釧路湿原野生生物保護センター	幼・保・認・小・中・義・高	33
16	1人1台端末を活用した情報活用能力 の育成	12月20日（水）	釧路市立鳥取西中学校	小・中・義・高	75
17	義務教育学校を見に行こう ～阿寒湖義務教育学校の実践～	7月4日（火）	釧路市立阿寒湖義務教育学校	小・中・義	54
18	公開研に行こう ～釧路市立音別小学校公開研究会～	12月1日（金）	釧路市立音別小学校	幼・保・認・小・中・義・高	30
19	公開研に行こう ～釧路市立幣舞中学校公開研究会～	10月20日（金）	釧路市立幣舞中学校	幼・保・認・小・中・義・高	133
20	公開研に行こう ～釧路市立鳥取西中学校公開研究会～	10月25日（水）	釧路市立鳥取西中学校	幼・保・認・小・中・義・高	164
21	公開研に行こう ～釧路市立釧路小学校自主公開研究会～	11月1日（水）	釧路市立釧路小学校	幼・保・認・小・中・義・高	71
22	公開研に行こう ～釧路市立芦野小学校自主公開研究会～	11月2日（木）	釧路市立芦野小学校	幼・保・認・小・中・義・高	62
23	公開研に行こう ～釧路市立昭和小学校自主公開研究会～	11月22日（水）	釧路市立昭和小学校	幼・保・認・小・中・義・高	107
24	ミニ研修講座 「生徒指導提要 改訂版」の趣旨とポイント	8月7日（月） ～8月31日（木）	オンデマンド配信	小・中・義	29
25	ミニ研修講座 ことばが気になる子供の理解と支援	1月19日（金）	釧路市生涯学習センター まなぼっと幣舞	幼・保・認・小・中・義	47

【釧路教育研究センター 教育講演会】

講 師 ・ 演 題 等	期 日	会 場	対 象	参加人数
講師： 武 藤 久 慶 氏 （文部科学省初等中等教育局学校 デジタル化 プロジェクトチームリーダー） 演題：『何故令和の教育改革なのか、GIGA スクール構想なのか？ ～ネクスト GIGA を見据え、教育 DX の先進事例から学ぶ～』	2月3日（土）	コーチャンフォー釧 路文化ホール	幼・保・認・小・中・ 義・高・一般	220

〇月別・相談内容別 集計表

【面談：0 電話：12 メール：0 延件数：12件 ※継続件数：0】

内容 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1 学 習 ・ 進 路								1					1
2 特 別 支 援								1					1
3 家 庭 教 育													0
4 非行・問題行動									1				1
5 不 登 校	1						1	1		1	1		5
6 い じ め													0
7 学 校 生 活											1		1
8 学 校 不 信	1				1	1							3
9 部活動・同好会													0
10 そ の 他													0
合 計	2	0	0	0	1	1	1	3	1	1	2	0	12

※（ ）はメール相談内数

〇校種別・内容別 集計表

内容 \ 校種	幼 児	小学校	中学校	高 校	大 学	一 般	不 明	合 計
学 習 ・ 進 路			1					1 8.3%
特 別 支 援			1					1 8.3%
家 庭 教 育								0 0.0%
非行・問題行動			1					1 8.3%
不 登 校			5					5 41.7%
い じ め								0 0.0%
学 校 生 活		1						1 8.3%
学 校 不 信			2	1				3 25.0%
部活動・同好会								0 0.0%
そ の 他								0 0.0%
合 計	0 0.0%	1 8.3%	10 83.3%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12

継続相談を含むため、相談件数が問題発生件数を示しているわけではありません。

※（ ）はメール相談内数

《研究グループ研修実施状況》

利用目的・機関	回 数	人 数	備 考
① グループリーダー研修	41	123	
② グループメンバー研修	27	343	

【北海道通信 令和5年10月16日】

子の可能性伸ばす授業

大館市の教諭2人が示範授業

【新設校】新鈴路中学校は、4年制の2学期制、大館市唯一の公立中学校を開設した。秋田県立新館市授業マイスター2人（大館市立桂枝小・中嶋中嶋教諭、東中・根本大輔教諭）を招請、市内小・中学校での示前授業の経験、開の鈴路市授業マイスターとの授業力向上シナリオを行った。市内小・中・義務教育学校から14人が参加、今求められている授業の任に方々に向け、授業改善について研修を深めた。

ゴールから課題逆算を

授業像明確化へシンポジウム



イスターが、様々な
視点から、現代や今後
の取組などについて
討論した「雪真下」
2。

シシボワム開催
に当たり、あいこと
に立つ「国際基督教
青年会」は大都市と交
流のきっかけの視察
研修の際に、根本教
師は、

「いかにして、大切であ
ることを解決するの
が」と、学習の
学習課題であると
根本教師は、第
で、ゴールの姿が明

中教職員は、子ど
ろは、

「いかにして、大切であ
ることを解決するの
が」と、学習の
学習課題であると
根本教師は、第
で、ゴールの姿が明

講師 大館市教員4日、研修
題目を公開、昭和小校の
北中学校の授業観や剣
道市授業マスタなどの前
示の模範公開の旨の
メシで、話し
るなを多測する
は「ゴルから讀
す」と期待する
姿が見えてる。生徒

業マイスターの授業参観が中心。長期休業中などに授業を含めた様々な悩みなどを聞く機会を設け、横のつながりも大切にしているとし、少ない時間をいかに有効活用するかがポイントに

今回のシンポジウムの様子は、今月下旬にオンデマンドで全市小・中学校・義務教育学校に配信される予定。

学
9年間の模範と今後の模範
の大切さが明確になったと
した。

銚路市でも全小・中学校
がねらいに合ったベクトル
を同じ方向にする取組が少
しずつではあるが、進み始
めている実態などを報告し
た。

後進の育成に関する取組
に関して、大館市では5年
目以下の若手教員は主に授



思ったのがあった気がする。生徒指導の機能を生かしながら、ぜひ生徒と共に上げる授業を」と力強く言った。

後、今後も大館市をして釧路市の先生と情報を共有する中で、子どもたちの可能性が芽押でできる子どもたちのための授業づくりに全力を注ぐと、互いに

は不可欠になるのでは」という意見が、また、前年度、市政教がまとめた「銅路市が目指す授業」が各学校のつながりに効果を示し、小中連携に役ついても、

た 参加者からは「やってこ
らんじう声かけで、子ど
もも安心して取り組んでい
た」「カードや考え方の流
送」

改善
路の
どを
に

でも

た
な
し
た。

訓練授業マイスターか
らは、場や機会を意図的に
設けるなどの工夫や、校
種、教科を越えた研修が必要
であり、マイスター制度
を通

で
ド
が
本
場

「先生方とは情報交流な
らなくて、これからは互いに
通してこれからは互いに
通張ろう」とエールを
送った。

「目をつけたところでは、いよいよ発開から、二人の泳いだ距離の差や、同じ距離を泳いだ部分を明らかにする点に注目。分りやすい図で比たり、共通部分を引き、簡単に分るから差を使って計算したりするのを聞いた。」

ちと交わった話のルール（自分の意思をはっきりと表すこと。友達の発表に対してうなずくなどのアクシヨンを示すことなど）について、その意図や目的を説明し、授業をする上で基礎ともいえる児童との信頼関係の構築についても触れた。

このあと、討論の柱「授業から学んだこと・見えた良き」を中心に、12グループに分かれての協議に入った。

「子どもの意見を教師の手につなげる子ども主体の授業だ」といったことが出た。

その後、中級教師は、勉強会でも「子どもがやっているものもあり、私たち教師はそれを伝えるだけとした」といふようにしていた。多くの意見をもち帰り、大體「わたしたちのために授業を分かちやすく提示される」といふことがわかった。

記述できる板書構成だった。

「子どもの意見を教師の手につなげる子ども主体の授業だ」といったことが出た。

その後、中級教師は、勉強会でも「子どもがやっているものもあり、私たち教師はそれを伝えるだけとした」といふようにしていた。多くの意見をもち帰り、大體「わたしたちのために授業を分かちやすく提示される」といふことがわかった。

【北海道新聞 令和5年10月18日】

授業改善 秋田・大館に学ぶ

釧路でシンポ 両市の教員ら意見交換

鉦路市教委は、秋田県大館市と鉦路市の教員による授業改善のためのシンポジウムを市立昭和小で開いている。

シンポは4日に開かれ、大館市の教員2人が釧路市の授業マイスターの教員4人と意見を交わした。釧路

大館市は、全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）で全国上位の成績を収めており、釧路市と2021年度から授業改善の交流を行っている。

の小中学校で授業を視察した大館市の根本大輔教諭は「教員が話しすぎているので、生徒同士の対話の機会を増やすことが必要だ」と指摘した。釧路市の教員が

市独自の制度で、優れた授業を行う「授業マイスター」若手教員の育成が課題と述べたところ、大館市の中村恵教諭は「夏休みに授業を



イスターによる研修会で熱
みを共有している」と紹介
した。

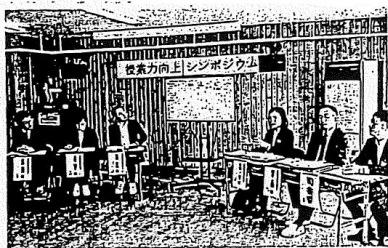


参加した市立鳥取西中の
細野歩教諭は「教員が黒
の前で話だけでなく、グ
ループワークを増やした操
業をしたい」と話した。

秋田県大館市の教員と釧路の教員による授業改善のためのシンポジウム―市上昭和

(上) 田惟高

(上田惟高)



【北海道通信 令和5年11月6日】

釧路市教委 親と子の教育相談

一人で抱え込まないで

市教育研究センター職員が助言

【釧路発】釧路市教委は、10月23日から2日間、市役所防災庁舎で、児童生徒の健全育成を図るための教育相談活動として「親と子の教育相談」を開いた。市教

育研究センターの教育相談員らが、訪れた相談者に対して助言や援助を行うことで、児童生徒の健全育成の一助となるよう努めた。

訪れた相談者は小中学生の保護者が多く、不登校に関する悩みを打ち明ける保護者に対しては、児童生徒の現状を整理することも

児童生徒の健全育成を図る教育相談活動の一環として、子どもたちに関わる様々な問題に配慮するために行った出張教育相談。2日間にわたり、市教育研究センターの教育相談員ら5人が相談を受け付けた。



に、課題解決に向けた助言や援助を行った。写真。相談員を務めた市教育研究センターの大場公博研究グループリーダーは「相談しやすい機会を設けることで各家庭における課題解決への道筋を立てることができれば、一人で抱え込まないようにしてほしい」と呼びかけた。

【北海道通信 令和5年11月8日】

道徳研修講座でマイスター授業公開

価値に向かう問い返し

釧路市教委 新陽小・三守教諭

【釧路発】釧路市教委は10月31日、釧路市立新陽小学校（福田由美子校長）で研修講座「道徳科教育の充実～マイスターの授業公開」を開催した。市内や管内の小・中学校、義務教育学校から68人が参加。本年度認定された授業マイスターによる授業公開や研究協議を通して、道徳科における課題について把握し、今求められる授業の在り方の研修を深めた。

市教委は、ことし授業マイスターに認定された2人による研修講座（授業公開）2講座と、前年度授業マイスターに認定された6人の「授業マイスターに学ぶ」（市の授業力向上事業の一環）6講座を開設。教員全体の指導力向上を目的に7月～来年1月にかけて実施している。

このうち、研修講座「マ

マイスターの授業公開」は、ことし授業マイスターに認定された2人が担当。7月には鳥取西中学校の細野歩教諭が3年生社会科「個人を尊重する日本国憲法」で授業公開している。

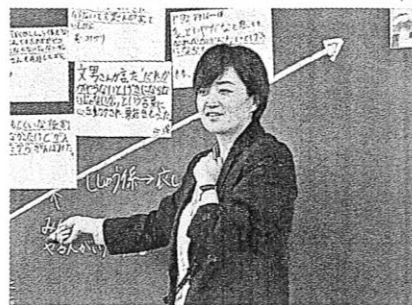
この日、新陽小の三守純子教諭が5年1組で道徳科の授業を公開し「写真」。教材「森の絵を活用し」「自分の役割を考えて」の内容項

目について考えを深めた。本時のねらいを「えり子さんの心の変化について話し合うことを通して、クラスや学校で役割を果たす時に大切な心へ気づき、自分の役割を自覚しながらみんなで協力し合ってよりよいクラスや学校をつくらうとする実践意欲を高める」と設定した。

はじめに「やりたくない子どもたちは、心情の変化の理由をボードに書き込み、それぞれの考えの共通点や相違点を見つけ、黒板にまとめた。

板書をもとに「人が頑張っていたら、どうして自分も頑張ろうと思う？」誰かがやらなきゃというの、仕方なくやっているの？」

「誰かは自分でもないの？」など、子どもたちの考えに對する問い返しを続けることで、問題を自分事として捉えようと、自分の経験とも照らし合わせた。学習の振り返りでは「自分の仕事がみんなのためになると思っ頑張る」「苦手なことでも友達と協力して取り組みたい」などといった意見が出され、より良い学校生活や集団生活の



充実に努めることの大切さに気付いた。

授業後、体育館で行われた研究協議では、授業者から授業のポイントや課題などの説明が行われたあと、参加者は12グループに分かれ協議に入った。

参加者からは「問い返しの粘り強さがすごい。マイナスの考えを問い返すことでプラスの考えに発展していった」「クラスの雰囲気」なども良く、自分の考えを自由に話せる。子どもたちが自分たちの言葉でまとめた「などといった意見が聞かれた。

鳥取西小学校の五十嵐結子教諭は「子どもたちとの良好な信頼関係のもと、たくさん問い返しが、ねらいとする価値に近づき、深い学びにつながっていると感じた」と話した。

【釧路新聞 令和6年2月7日】



ステージから降りて語り掛ける講師の武藤氏

デジタルの作り手 使い手育成必要

文科省の武藤氏講演

釧路教育研究センターの教育講演会が3日、コーチヤンフォー・釧路文化ホールの小ホールを会場に開催された。文部科学省が取り組むGIGAスクール構想を担う同省初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチームリーダーの武藤久慶氏が講師を務めたことから、会場を埋め尽くす200人以上の教育関係者が集まった。

冒頭、釧路市教育委員会の岡部義孝教育長は、武藤氏を同構想推進の「日本の

責任者」と紹介した。講演の中で、武藤氏は教

育改革の背景に①人口減少・少子高齢化②グローバル化③多様性と包摂の重視④デジタル化⑤変化の激しい不確実性の時代⑥人生100年時代―の外的トレンド六つを挙げた。

この中で、日本のデジタル競争力が低下している実態を示しながら、デジタルのよき作り手、賢い使い手を育てる必要性を説き、「子供たちが時代にうまく乗って幸せで、充実した生活を送れるようGIGAスクールを推進する」と語った。また、全国的な実践も紹介しながら、教育の在り方を詳細に説明した。

(郷裕策)

【北海道通信 令和6年2月8日】

釧路市教委 5年度教育講演会

学びのリアル充実を

ICT活用で文科省・武藤氏



武藤氏はGIGAスクール構想を解説した

効果をもたらす可能性を示した

【釧路発】釧路市教委は3日、コナツォー釧路文化ホールで5年度教育講演会を開催した。約220人が参加する中、文科省学省初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトリーダーの武藤久慶氏が講師を務め、令和の教育改革やGIGAスクール構想について、全国各地の実践事例を紹介しながら解説。ICT技術の恩恵によって、子どもたちの学習権が高まっているとし、「デジタルを使って学びのリアルを充実させよう」と呼びかけた。また、急速に進展する生成AIについて「ぜひ公務で使ってほしい」とし、学びの充実、教員の働き方改革に大きな必要」とした。

中では、各種データを示しながら、日本がPISA2022の全分野で世界トップクラスの成績を上げ、全人的な教育、規範意識・道徳心の高さに高い評価を得ている一方で、自律学習を行う自信がないと回答する生徒が非常に多いこと

と、民主主義にとって大事な当事者意識が不十分なことなどを指摘。「学校教育のアップデートも求められている」と、個別最適で自己調整が図られる学びの重要性を強調した。

背景と現状分析をもとに武藤氏は令和の日本型学校教育に言及。正解主義や同調圧力からの脱却、一人ひとりの子どもを主語にする学校教育の実現に向けて、GIGAスクール構想が果たすべき役割を、全国各地の実践事例を交えながら解説した。

実践事例では、端末機器を日常的に活用することで、療養中や保健室登校の子ども、外国籍の子どもたちの学びの保障に努めている事例、体育授業で録画収録や好事例との比較を端末機器で瞬時にし、学習の自己調整、協働的な学びを実現している事例など、多様な実践を紹介した。

併せて、端末機器やクラウドの活用が進む中で、学校の既存の慣行の変化、教師の肌感覚（能力感）の変化が進んでいることも紹介。「静かに日本中で大きな変化が起きている。ツールを使い様々な弱点を克服することは、決してするではない。認めることが大切」と、令和の日本型学校教育における変化への対応を求めた。

また、武藤氏は子どもたちにとっての学びの複雑化、自由進歩の重要性も示し、家庭学習における端末やクラウドの活用、端末の家庭への持ち帰りを推奨。「デジタルを使って学びのリアルを充実させよう」と呼びかけた。